

たたかう労働組合・回転寿司ユニオンに総結集して、労使関係正常化闘争を完遂しよう！

労使関係の正常化をめざして

編集・発行：回転寿司ユニオン

7

2025/12/21

企業内組合、66人の定期大会代議員全員がブロックマネージャー級以上 店長の2階級上位の職 クルー不在の活動実態がさらに明らかに

回転寿司ユニオンは、今年10月16日に開催された、企業内組合の第12回定期大会に関する資料を入手した。このうち、代議員名簿を確認、分析したところ、北は札幌分会から南は南沖縄分会まで、全国66の分会すべてでブロックマネージャー（BM）職以上の者（BMITを含む）が代議員になっていたことがわかった。

ブロックマネージャーは、店長の2階級上位の職で、数店舗を統括するエリアマネージャーのさらに上位、複数のエリア、十数店舗を統括する役職であり、ブロックと企業内組合の分会が対応している。

はま寿司では、店長以上が管理監督者とされており、ブロックマネージャーは管理監督者の中でも中位～上位の者ということになる。その者らで組合の議決機関が占められている現状は、とてもまともな組合のそれとは思えない。それどころか「使用者の利益を代表する者」が入っているとすれば、労組法上の労働組合として成立しているかすらも怪しくなってくる。

この「労働組合」がまったく現場ではたらくクルーの利益や要求を代表していないことは、これまでの「めざして」など労使関係正常化闘争の取組みや実態解明の中すでに自明となっていたことではあるが、まさかここまでとは誰が予想できただろうか。

実態がこれなのだから、クルーがこのような「労働組合」に見切りをつけて回転寿司ユニオンに移籍するのは至極当然のことだ。「めざして」3号で取りあげた店舗以外にも、北海道道央の店舗を含め、回転寿司ユニオンの組合員が在籍している各店舗などに池田徹中央執行委員長や高野芳彰中央執行副委員長とみられる人物らが「臨店」してきて「なにかあれば私たちに相談を」「電話番号は壁に貼ってありますので」などと言いまわっているようだが、こんな組織に安心して相談できるわけがないだろう。

過半数が来賓で呼んだ社長や人事部長の写真？！ 驚くべき「労使協力」路線ぶり

ところで、本定期大会の代議員募集を公示する、企業内組合情報誌「CONNECTニュース」の第39号（通算489号、2025年9月3日付）は、さらに驚くべき内容となっている。

本号の下半分弱が前回大会の写真5枚で占められているのだが、最も大きな写真ははま寿司の町野岳社長（当時）が来賓あいさつをしている場面の写真なのだ。さらに残りの4枚も、町野社長（2度目）、本坊興一「ゼンショー労連」会長、池田徹中央執行委員長、山中直人事部長と、まさに5枚中3枚が使用者側（しかも社長が2回！）だというのだ。

ふつうの組合なら、ここは活発に討論する代議員や評議員などの写真を載せたくなるところだろう。それを、あろうことか社長以下使用者の面々で過半数を埋めるとは、これまた到底まともな労働組合とは思えない。本坊興一「ゼンショー労連」会長らが豪語する「労使協力」路線とやらも、ここまで来れば噴飯物である。